

社団法人ゴルファーの緑化促進協力会調査研究

環境と人にやさしい

ゴルフとゴルフ場

第10回 環境問題に向き合うJGTOと
『はじめての第一歩!』

社団法人日本ゴルフツアー機構 高橋 直也
競技運営部課長



環境問題に取り組む三つの行動指針

大会期間中の排出CO₂を算定

社団法人日本ゴルフツアー機構（以下JGTO）は、宍戸ヒルズカントリークラブ（茨城）で「UBS日本ゴルフツアー選手権」を主催しています。イベントを実施すると、人や物が動けばゴミも出ますし、様々な形で環境に負荷をかけていることは否めません。この事実を認識し、JGTOとして環境問題にどのように貢献できるのかを検討した結果、全員参加型の『はじめての第一歩!』プロジェクトと題した「カーボンニュートラルゴルフトーナメント」の実現に向けて三つの取り組みに着手しました。

- ① 大会開催で発生した温室効果ガス（GHG）の削減対策
- ② 食の安全・地産地消に関する施策
- ③ 生物多様性への配慮

①に関しては、大会運営を「環境」という視点から考えれば最も適したテーマであり、また、その中でも排出されるCO₂に着目しました。CO₂は、他のGHGガスと比べても様々な場所や過程で多く排出され、そのため管理は難しく政策だけでは削減は容易ではありません。したがって現在では、多くの企業がCO₂削減への対策を実施しています。我々JGTOも、この大会からスタッフや選手、ファンの意識啓発につながる施策をうつことで、ボトムアップを図る一助になりたいと考えました。



はじめての第一歩!

例えば、数年前から取り組む「ゴミの分別」では、場内にゴミ箱を3カ所設け、分別係員・回収係員を配置するなど徹底しています。そしてギャラリーには、エコスタンプラリーの実施やエコバックを配布するなどした結果、来場者数は年々増える中で、ゴミの減量を実現できています。なお、場内で販売する弁当箱の原材料には、燃やしても有害物質はせず自然に還りやすいサトウキビを使用するなど、環境にも配慮しています。数年前から取り組んできたことが徐々

にですが浸透し、ゴルファーの環境問題の啓発につながってきていると考えています。

また昨年は、大会期間中のモノ、エネルギー、移動などすべての範囲で排出される CO₂ の算定を、武蔵工業大学の伊坪徳宏准教授に依頼しました。これは数項目の削減努力を設定した上で、排出された CO₂ を客観的データとして把握し、次回以降の大会運営につなげていくためのものです。報告では、準備期間を含めたトーナメント期間中に約 1000 t の CO₂ 排出量が算定されました。次に、これらの CO₂ をどのような形でオフセットしていくかがテーマになります。そこで、JGT O は自然の力を借りる方法を選択しました。

現在日本には、林業が衰退し手つかず状態の森林が数多くあります。その中から、我々は長野県飯田市の行政や山の所有者と提携し、森林が本来持つ機能を維持、回復させようと考えました。森林整備は地球温暖化防止、生物多様性保全につながります。さらには、その間伐材を大会で使用することで、将来的には林業を営む人々に利潤を生みだし、循環サイクルを形成出来ればと思います。この



弁当箱はサトウキビを原材料とした容器を使用

環境活動によって、大会で排出された CO₂ の約 65% が相殺されるとの報告を受け、今年は更なる削減手段を施して環境効率 (※) を引き上げたいと考えています。

また昨年の大会期間中に提供した食事メニューは、地元農家や業者から仕入れた食材を使用しましたが、販売価格は例年並みに抑えることができました。茨城県産の食材を地産地消という形で消費すれば、食の安全の確保、輸送コストや輸送に伴う排気ガスの抑制につながります。そして今年は、大会期間中に出た残飯を家畜の飼料に加工し、地元の養豚業者にリデュースすることも考えています。この地産地消の取り組みは、新しい形のギャラリープラザを展開できたと思います。

その他 JGT O は、NPO 法人アサザ基金による市民主導型の活動にも協力しています。例えば、茨城県霞ヶ浦流域の小学生を対象に、霞ヶ浦湖岸の植生帯復元事業などの環境教育を 07 年度から 08 年度にかけて 39 回実施し、延べ 2485 名の参加を得られました。



長期的視野での環境活動モデルケースを目指す JGT O

このような環境への取り組みは、我々だけでは長続きしません。賛同できる団体プロジェクトの一助として貢献できれば長期的な支援も可能です。今年は他のトーナメントへ働きかけ、より効果的な取り組みに発展させたいと考えています。トーナメントを主催する企業も、企業内では環境対策を実施しているはずで、それをどのようにゴルフイベントに

組み込み、運営するか、我々 J G T O がそのモデルケースになればと思います。

環境への対策については、一朝一夕には効果は得られません。事業利益と社会利益の捉え方によりますが、J G T O は、この大会ではまず社会利益を上げ、そしてその結果、事業利益に結びつけばと考えています。環境効率を上げることで企業収益が増すと同時に、環境への負荷を軽減させるところまで押し上げたいと思っています。



霞ヶ浦流域の植生帯復元活動を行う子供たち

ところで『はじめの第一歩！』プロジェクトは、大会を支える裏方スタッフを抜きには語れません。この取り組みは、最前線のスタッフが見て感じた問題点を全員が出し合うことから始まりました。最前線の意見や提案を受け入れて取り組めば、間違いなく大会のクォリティは上がります。そして、何よりも参加するスタッフの意識が上がります。このプロジェクトに携わるメンバーは皆、自分たちのイベントだと思ってく

れています。その姿勢こそが、この大会を通して『はじめの第一歩！』プロジェクトをギャラリーに伝えることができるのだと思います。

事実、これまでの取り組みによって手ごたえを感じています。それは、大会の評価が高まり、それによってスタッフの士気が向上することで、クライアントやギャラリーの好感度が上がっているということです。長期的なプログラムが時間とともに効果をあげ、イベントに集う人々に浸透し始めているのだと思います。

今年も『はじめの第一歩！』プロジェクトは、あらゆる利害関係者と有機的なネットワークを構築し、持続可能性のあるプロゴルフトーナメントを創り上げていきます。そして今後は、各ゴルフ団体やトーナメントのスポンサー企業などとも同じ方向性で連携し合い、効果的な環境への取り組みができればと思います。

※環境効率 - 環境と経済両面の効率性を示す指標